

3 - 6 大正 15 年 8 月 3 日羽田沖地震の新聞による調査

Study of the Off Haneda Earthquake of August 3, 1926

by Newspapers

東京大学地震研究所 宇佐美 龍 夫
Tatsuo USAMI,
Earthquake Research Institute,
University of Tokyo

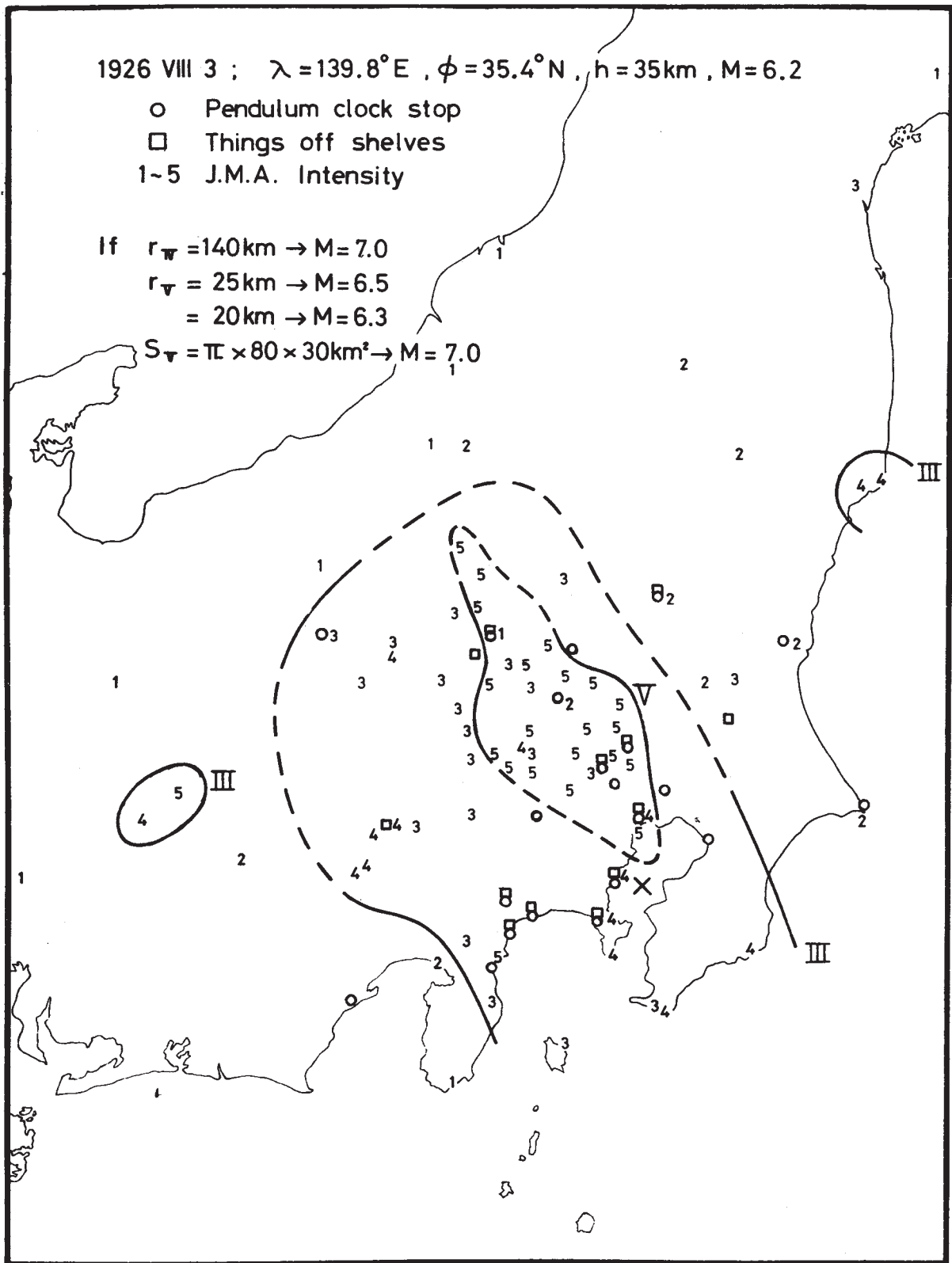
当時の新聞を調査した結果、判明した被害は第 1 表のとおりである。たゞし、数紙で相矛盾する記事のときには“？”をつけた。あるいは合理的と思われるものをとった。第 1 図の○印は表に「時計止る」とあるもの。□印は「棚のもの落下」とあるものである。図の算用数字は『気象要覧』による震度を現行震度になおしたもの。それにもとづく震度ⅢとⅤの等震度線を引いてある。この震度は大きすぎるようである。たとえば、当時の強震（強キ方）を震度Ⅴとしたが、当時は強震、弱震というように、言葉からうける感覚を主にして震度をきめていたのではないだろうか。強く感じたから強震というように、それを公式的に現行震度に変換すると現行震度の定義とは一致しないことになると思われる。震度分布は『気象要覧』によるよりは新聞調査による震源状況から現用の震度階級にてらして推定したものを用いるほうがよいと思う。この考えにしたがい、かつ、河角の震度階を参考にすると表による限り震度Ⅴと云える所は、東京・横浜・横須賀のみと考えられる。この地域の半径をそれぞれ 25km, 20km とすると $M = 6.5, 6.3$ となる。

また、『気象要覧』の震度に基づく第 1 図の震度Ⅳの地域の最大半径を $r_{IV} = 140 \text{ km}$ とすると $M \approx 7.0$ となり、震度Ⅴの地域の面積を長径 160 km, 短径 60km の楕円とすると、 $M \approx 7.0$ となり、いずれも大きすぎると思われる。

緯度・経度・深さ・規模は、気象庁により $\lambda = 139.8^\circ \text{ E}$, $\varphi = 35.4^\circ \text{ N}$, $h = 35 \text{ km}$, $M = 6.2$ と与えられている。当時の観測データからは東京湾中部としか云えないが、上記、東京・横浜・横須賀地域の中央と云う意味でなら、震央は川崎沖になるだろう。

地名	被害	備考
東京	<p>上下動3回 棚の上のもの落ちる 時計止る 瀬戸物屋・ガラス屋・鶏卵屋にかなりの被害がある模様 傷2 停電あり</p> <p>新宿御苑……温室のガラス80枚破損 植木鉢100個倒れる</p> <p>京橋南横町…電灯線切断 工事の跡、所々さける</p> <p>田端……鉄道線路わき、外数ヶ所で亀裂</p> <p>下渋谷……エビス電球製造所化学研究?で薬品が棚から落ち爆発、大事に至らず</p> <p>高輪電話局…天井のガラス3枚かけ落つ</p> <p>四谷分局……別館の瓦若干落ちる コンクリート屋根に亀裂 宿直室入口の壁落つ</p> <p>市電……品川付近で一時不通(送電線の故障)</p> <p>中央線……荻窪-阿佐ヶ谷間で鉄橋のくい違い?により一時不通</p> <p>京浜線……停電のため一時不通(高圧線の故障)</p> <p>電話回線の不通……東京-横浜 5回線 東京-大宮 1回線</p> <p> " - 館林 1 " " - 羽田 1 "</p> <p> " - 鎌倉 1 " " - 小田原 2 あるいは3</p> <p> " - 葉山 1 " " - 片瀬 1回線</p> <p> " - 高崎 1 " " - 名古屋 1 あるいは2</p> <p> " - 神戸 1 あるいは2 " - 古河 不通</p>	<p>今村によると左記のほかに、神田と市谷でガス管が破裂した。</p>
横浜	<p>棚のもの落ち、時計止る 電灯のゆれ落ちたものあり 傷1 市電全線にわたり停電 北方で電灯線約200ヶ切断</p> <p>加賀町署の新らしい鉄筋コンクリート柱(直径2尺)にひび</p> <p>市営中豆口住宅……壁の殆ど崩落せるもの数戸 家屋の傾くもの数戸</p> <p>崖崩れ4ヶ所……(野毛山-長15間、巾10間 根岸町天神橋際の稲荷山-長6間、巾3間 本牧海岸-長15間、巾5間 本牧町池田-長15間、巾10間)</p> <p>水道管……仏向で20インチ鉄管の joint 外れる 蒔田橋の8インチ鉄管故障 根岸刑務所前等数ヶ所で故障</p> <p>電話……本局・長者町局内の1万本すべて不通 2時間後に復旧</p>	
鎌倉	時計止り、棚のもの落ちる	
須賀	液体溢れる 崖崩れなどあった	
磯原	時計止り、棚のもの落ちる	
小田	"	
熱海	時計止る 壁の落ちた家数戸	
静岡	時計止る	
甲府	ガラス・瀬戸物類の商店の被害かなりある	
松田	時計止る 棚のもの落ちる	
千葉	市内の柱時計すべて止る 壁の落ちた所あり	
銚子	時計止る	
八王子	"	
松戸	"	
川口	"	
浦和	" 瀬戸物商等多少の被害	
粕壁	" 棚のもの落ちる 電話・電灯線に故障	
熊谷	" 壁の亀裂少くない	
土浦	棚のもの落ちる	
水戸	時計止る 地震計の針外れる	
宇都宮	" 棚のもの落つ	
足利	時計止る	
前橋	" 棚のもの落ちた所あり 地震計の針外れる	
高崎	棚の上のもの落ちる	
上田	時計止る	
足尾	液体溢れる	
布良	戸障子鳴る	

第1表 大正15年8月3日の地震による被害
(東京日日新聞, 読売新聞, 東京朝日新聞, 報知新聞)
Table 1 Damage induced by the earthquake of 8 / 3 / 1926.



第 1 図 被害及び震度分布

Figure 1 Distribution of damage and seismic intensity